

白井市民大学校事業について（意見交換参考資料）

【事業概要】※令和 6 年度入学案内参照

- ・市民大学校は、公民館事業として教育委員会が行っていた福寿大学校と企画課が行っていた健康文化都市大学を統合し、効率化を図るとともに学部制により体系化させ、健康の維持改善、地域活動の実践の懸け橋となる新たな市民講座として、平成 17 年度に開校し、令和 6 年度で節目の 20 年を迎えました（コロナ禍で 1 年間休校あり）
- ・いきいきシニア学部（60 歳以上）とささえあい発見学部（30 歳以上）の 2 学部構成（以前は 3 学部あったが、見直しにより現在は 2 学部となっている）
- ・年間およそ 18 講座を平日の日中に実施する通年事業
- ・市の最上位計画の総合計画にて、重点戦略事業となっている

【課題】

- ・受講者の平均年齢が 70 歳を超えており、若い世代の受講がない
- ・定員割れ、追加募集による募集の延長など
- ・講座内容のマンネリ化
- ・欠席者の増加
- ・他課や公民館との事業内容の重複
- ・市民活動、地域活動への参加を促すことが目的になっている（市の施策目標であって、生涯学習の本来の目的ではない）
- ・

【原因】

- ・年間事業が申込のハードルを上げている（参加者の満足度は高い）
- ・平日の日中では、参加できる世代が限られる
- ・通年事業のため、見直しが難しい（事業完了前に、次年度の準備が必要）
- ・
- ・

【解決策・アイデア等】

- ・
- ・
- ・

【市民大学校をどうしていくべきか】

- ・
- ・
- ・